

# 水辺活動における危機予知・回避能力の育成

## 1. 川の構造と流れの違い

### 場所によって変わる川の表情

川の表情はその流れによって大きく3つに分類できる。

**淵**：川が蛇行する時、流れが岩盤などに当たって川底を深くえぐった所。流速は緩やかでよどんでおり、見えない川底には小石や砂、泥などが溜まっている。特に流れが緩やかで止まって見えるような深い所は「瀬場」とも呼ばれる。

**平瀬**：淵の下流には浅くて流れの速い「平瀬」があり、川底には大きな石や岩が多い。水面にはさざ波が立っているが、川底は見えている。

**早瀬**：平瀬の下流にあって流れは3つの中で最も速い。水面には白波が立っていて川底が見えない。

このほか、段差があり小さな滝のようになっている所は「落ち込み」と呼ばれる。「落ち込み」は川底が深くなっている上、縦方向の水流が発生しているので大変危険である。

### 川の流れる場所によって速さや向きが変わる

川の流れる、曲がりくねった場所では内側より外側の方が速くなっている。まっすぐな所では、水深が浅い場合は全体的に均等に流れるが、深い場合は中央部の流れが速くなる。

また、川に突き出た岸の陰になった所には、ぶつかる流れと反対方向の「反転流（反射流ともいう）」が発生し、渦を巻いている。最も注意しておきたいのが、本流と主流が合流している場所。ここでは「合わせ波（三角波）」が発生し、流れが複雑になっているため、足を取られてしまう危険性が高い。

### 中洲や河原は川そのもの

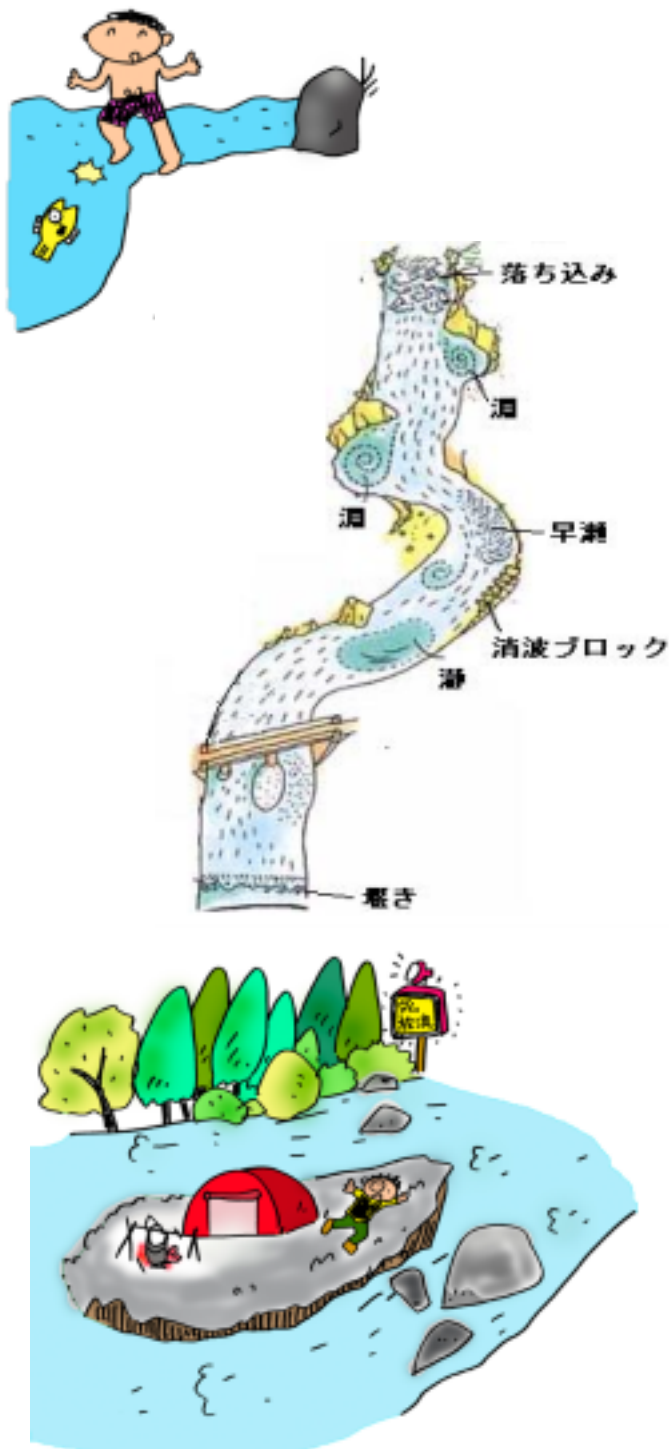
周りに草木があまり生えていないような中洲や河原は、水が増えると瞬く間に川底になってしまう。たまたま水が流れていない川底だと考えておく方がよい。特に中洲は、周囲を水で囲まれているだけに、増水すれば逃げ場がなくなってしまう最も危険な場所である。

### 河原の周囲をよく観察しよう

河原の周囲で木々草木の植生がまったく見られない場所は水が出るといっきに増水する場所である。

### 川の表情の変化に注意しよう

特に上流部などでは、増水時に大きな岩などが流れてきて川の表情がガラリと変わってしまうことがある。「前にも行った場所だから...」と油断せずに、その日、その時の川の表情を見極めることが大切。



## 2. 川に出かける準備

### 気象情報と河川情報は必ずチェックして出掛ける

川に行く日程と目的地が決まったら、事前に周辺の気象情報や河川情報をチェックしておく。特に山間部では大気が急変しやすく、大雨が局地的に降ることもしばしばある。急激な増水や鉄砲水が発生することもある。また、上流部で降った雨は必ず下流域に影響を及ぼすので、下流部に出掛ける時は上流部の天候にも気をつける。地図を調べ、上流にダムがある場合にはダムの放流情報もチェックしておく。もし悪天候が予測されるようなら、計画を中止する勇気、撤退する勇気も大事である。とりわけ子ども連れの場合は特に無理がないように留意する。

### 安全な川遊びのための服装

川遊びのための服装は軒やかなものが多い。川の中に入る場合は、水着にライフジャケット（緊急用の呼び笛を首から掛けるようにする）を着用するのがベスト。足元は厚手のソックスに履き慣れた運動靴（紐またはマジックテープ付きか、水が抜ける構造になっているウオーターシューズなどを履くようにする。川底には何があるかわからないので、裸足では絶対に川の中に入らないようにする。岸辺では、虫に刺されないよう長袖シャツに長ズボン、日射病や熱射病にならないようつばの大きい帽子を被る方がよい。気温に合わせて脱ぎ着ができるジャケットや、降雨に備えてレインウエアも用意しておきたい。素材は防水性や撥水性の良さから、木綿などの天然素材よりナイロンやポリエステルなどの合成繊維素材の方がよい。

### そのほか用意しておきたいもの

川遊びでは多少の擦り傷はつきものである。救急用のファースト・エイド・キットと傷口を洗うきれいな水を用意しておく。また、緊急時に備えて救助用のスローロープやひも付きの浮き輪を用意しておく。

川で遊んでいるときに最も怖いのは突然の増水である。現地で気象情報を入手するためのラジオや携帯電話は必ず用意しておく。



気象情報の集め方  
テレビ、ラジオ、電話サービスなどのほかに現地では、携帯電話やインターネットでの情報も活用するとよい。



ひつじ雲が出たら天気は下り坂



日中の山風は雨になる



笠雲は雨の予兆



遠くの音が聞こえると雨が近い

